

道徳教育指導法の授業アンケート分析

川 野 司

九州女子大学人間科学部人間発達学科、北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1（〒807-8586）

（2013年11月1日受付、2013年12月19日受理）

要 旨

平成24年度前期授業「道徳教育指導法（初等・中等）」について、学生が道徳の授業をどのように認識しているかを調査してまとめたものである。初等では授業に「満足できた」が25%、「やや満足できた」が69%であり、中等では「満足できた」が36%、「やや満足できた」が56%であった。初等も中等も共に授業満足度に関しては肯定的評価であった。また「満足できた」の上位3つの授業テーマは、初等では「作成した指導案の工夫」が50%、「学級活動と道徳」が42%、「指導案作成とグループ協議」が35%であった。中等は「道徳の発問」が80%、「道徳教育推進教師の役割」が75%、「作成した指導案の発表」が63%であった。授業は前半をグループ討論に、後半を講義形式に行ったが、後半をクラス全体の討論形式にしていくことが課題である。

1. 目的

平成24年度前期授業「道徳教育指導法（初等）」と「道徳教育指導法（中等）」について、学生が授業をどのように認識しているかを調べるために、総括的なアンケート調査を行い、授業内容・方法等について評価するとともに、平成24年度後期授業改善に資することを目的とした。

2. 方法

（1）調査計画

「道徳教育指導法（初等・中等）」の授業アンケート用紙（資料）を作成して、14回目授業のなかで実施した。

（2）調査時期

アンケート調査は「道徳教育指導法（初等）」については平成24年7月16日に、「道徳教育指導法（中等）」については7月20日に、それぞれの第14回目授業の最後に行った。

（3）対象者

「道徳教育指導法（初等）」履修学生84名、「道徳教育指導法（中等）」履修学生36名であった。

3. 結果

(1) 履修学年の人数と割合

表1は、「道徳教育指導法（初等）」と「道徳教育指導法（中等）」を履修する学生の内訳である。履修対象者が3年生なので、3年生の受講割合が多いが、免許取得のため4年生が一部受講している。

表1 学年の人数と割合

問1	人数 (初等)	割合	人数 (中等)	割合
3年	76	93%	26	74%
4年	6	7%	9	26%
計	82	100%	35	100%

図1は、学年毎の初等と中等の受講学生の割合を横棒グラフに示したものである。「道徳教育指導法（初等）」と「道徳教育指導法（中等）」は、本来は3年生を対象とした授業である。しかし「道徳教育指導法（中等）」を履修する学生の25%が4年生であった。

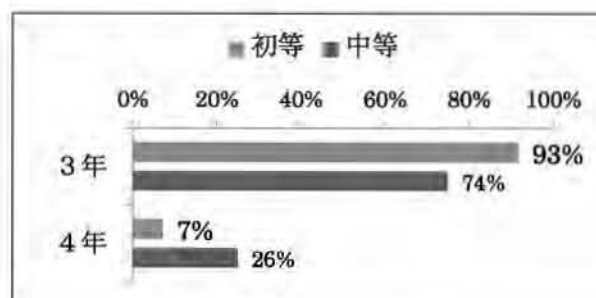


図1 初等と中等の学年別割合

(2) 学科等の内訳

表2は、アンケートに回答した学生117名のうち、「道徳教育指導法（初等）」を受講する学生が70.1%、「道徳教育指導法（中等）」を受講する学生が29.9%であった。

また回答者58名のうち、児童発達コース学生の87.9%（51名）が「道徳教育指導法（初等）」を受講しており、「道徳教育指導法（初等）」を受講している基礎学専攻学生は12.1%であった。

一方、回答者40名のうち「道徳教育指導法（中等）」を受講する基礎学専攻学生は70.0%

(28名)であり、児童発達コースの学生は30.0% (12名)であった。この違いは「道徳教育指導法 (初等)」は発達学科の学生を対象にしており、「道徳教育指導法 (中等)」は基礎学専攻の学生を対象とした授業である。免許資格取得のために、他学科開講授業を履修しなくてはならない教職員免許法上の規定によるものである。

表2 学科等の人数・横割合一欄

n・% 学科・コース	人数と横割合		
	全体	初等	中等
全体	117	82	35
	100.0%	70.1%	29.9%
乳幼児発達コース	16	16	0
	100.0%	100.0%	0.0%
児童発達コース	58	51	7
	100.0%	87.9%	12.1%
基礎学専攻	40	12	28
	100.0%	30.0%	70.0%
文化学科	3	3	0
	100.0%	100.0%	0.0%

表3は、回答者117名の中で「道徳教育指導法 (初等)」と「道徳教育指導法 (中等)」を受講している学生の学科・コース別の割合を一欄表にまとめたものである。「道徳教育指導法 (初等)」を受講している学生82名の中では、児童発達コースが58名 (49.6%)、基礎学専攻が40名 (34.2%)、乳幼児発達コースが16名 (13.7%)、文化学科が3名 (2.56%)であった。また「道徳教育指導法 (中等)」を受講している学生35名の学生の中では、基礎学専攻が28名 (80%)、児童発達コースが7名 (20%)であり、乳幼児発達コースと文化学科の学生はいなかった。

表3 学科等の人数・縦割合一欄

割合 学科	人数と縦割合		
	全体	初等	中等
全体	117	82	35
	100%	100%	100%
乳幼児発達コース	16	16	0
	13.7%	19.5%	0
児童発達コース	58	51	7
	49.6%	62.2%	20%
基礎学専攻	40	12	28
	34.2%	14.6%	80%
文化学科	3	3	0
	2.56%	3.66%	0%

(3) 進路先希望

回答者 117 名の進路先希望をまとめたものが表 4 である。発達学科（初等）学生の進路先希望の上位 3 つは、小学校が 40 名（48%）、特別支援学校が 13 名（15%）、幼稚園が 9 名（11%）、保育園が 9 名（11%）であった。

一方、基礎学専攻（中等）学生の進路先希望の上位 3 つは、小学校が 11 名（31%）、高等学校が 8 名（22%）、資格が生かせる仕事が 5 名（14%）であった。

次に表 4 をもとに進路先希望の割合を横棒グラフで示したものが図 2 である。図 2 からは、保育園、幼稚園、小学校、高等学校、特別支援学校、民間会社、資格が生かせる仕事などの割合が高いことが分かる。

表4 進路先希望一欄

進路先希望数	初等	中等
1 保育園	9	0
2 幼稚園	9	2
3 小学校	40	11
4 中学校	1	1
5 高等学校	4	8
6 特別支援学校	13	2
7 子ども関係の施設	0	0
8 公務員	2	1
9 民間会社	0	4
10 事務職	0	1
11 飲食・販売などのサービス業	2	0
12 資格が生かせる仕事	2	5
合計人数	82	35

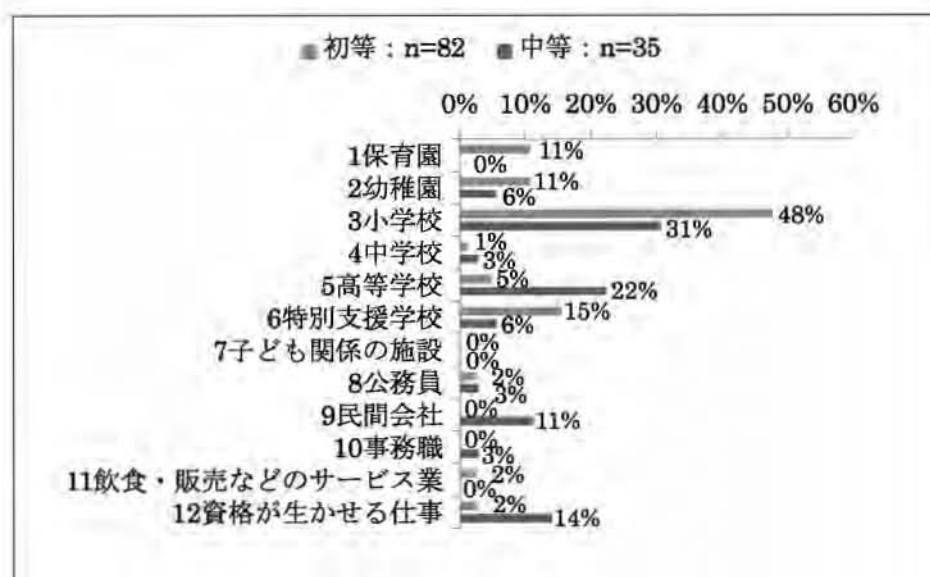


図2 進路先希望

(4) 性格の違い

回答学生の性格傾向を調べてみた。初等と中等それぞれの性格割合を横棒グラフで示したものが図3である。学生の性格傾向としては初等と中等ともに、「明るい」、「のんびり」、「気分や」の割合が大きかった。また、データの特色や傾向を調べるために、学生の性格傾向のクロス集計を行った。その一欄が表5である。

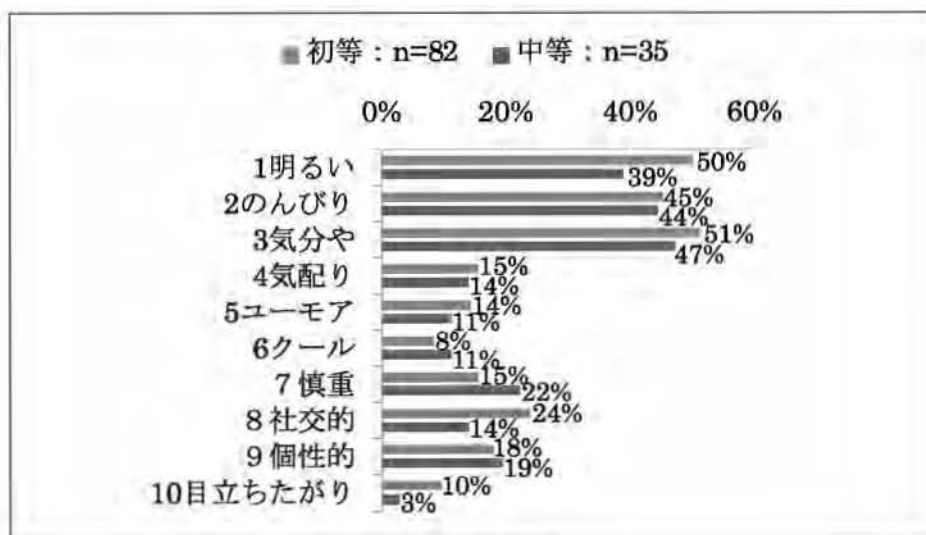


図3 性格傾向のグラフ

表内の数値は回答人数であり、対角線上の数値は単純集計結果と同じである。対角線上の「明るい」(42人)、「のんびり」(38人)、「気分や」(43人)の回答が多く、「クール」(7人)と「目立ちたがり」(8人)は少なかった。対角線外の例えば、「のんびり」と「気分や」が交差するセルの値は22であり、これは「のんびり」と回答した学生が同時に「気分や」を選択しており、「のんびり」と「気分や」の両方に回答した学生が22人いたという意味である。

表5 クロス集計 (n=81)

変数名	1 明るい	2 のんびり	3 気分や	4 気配り	5 ユーモア	6 クール	7 慎重	8 社交的	9 個性的	10 目立ちたがり
1 明るい	42	18	19	7	7	3	4	17	10	5
2 のんびり	18	38	22	3	6	3	5	6	8	5
3 気分や	19	22	43	7	8	3	3	12	7	6
4 気配り	7	3	7	13	4	1	2	5	2	2
5 ユーモア	7	6	8	4	12	4	2	5	5	2
6 クール	3	3	3	1	4	7	2	1	3	0
7 慎重	4	5	3	2	2	2	13	2	2	1
8 社交的	17	6	12	5	5	1	2	20	5	3
9 個性的	10	8	7	2	5	3	2	5	15	4
10 目立ちたがり	5	5	6	2	2	0	1	3	4	8

さらにデータに数量化3類を用いて、カテゴリースコアとサンプルスコアを求めた。カテゴリースコアは、調査項目がカテゴリーなので、そのカテゴリーを数量化し、カテゴリー間の距離を測定することでカテゴリーの類似度を調べるために利用する。同様にサンプルスコアは、回答者間の類似度を調べるときに使用するものである。カテゴリースコアは下の表6である。

表6 カテゴリースコア (初等)

変数名	1 軸	2 軸
①明るい	-0.41462	-0.31496
②のんびり	0.081337	1.694802
③気分や	-0.51446	0.450152
④気配り	-0.50577	-1.98435
⑤ユーモア	0.330953	-0.93242
⑥クール	1.378374	-1.09811
⑦慎重	3.558654	-0.24145
⑧社交的	-0.63248	-0.9127
⑨個性的	-0.04663	-0.31427
⑩目立ちたがり	-0.43916	0.031045

この表6のカテゴリースコアをもとに、散布図を描くと図4のカテゴリースコア散布図が得られた。1軸は左右方向のカテゴリースコアの点を表している。左右方向に広がりを見せる点の項目から、1軸は外交的性格と内向的性格を表していると考え、外交的・内向的性格軸と命名した。

同様に2軸は上下方向に広がりを見せる点がプロットされており、各点の配置から陰的性格と陽的性格を表していると考え、陰的・陽的性格軸と命名した。

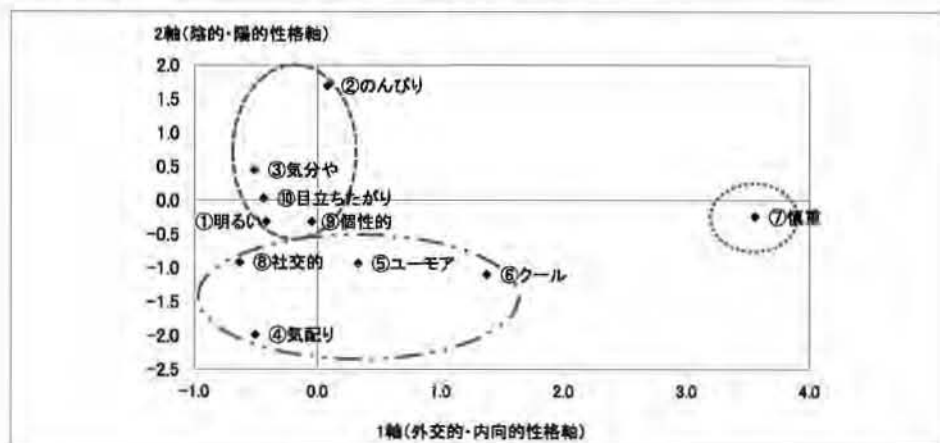


図4 カテゴリースコア散布図(初等)

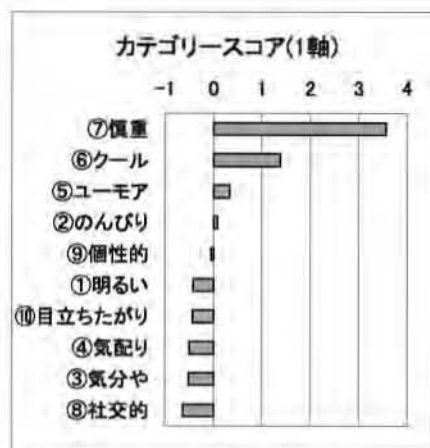


図5 1軸グラフ(初等)

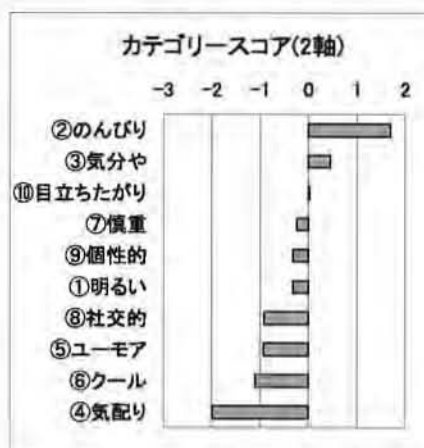


図6 2軸グラフ(初等)

さらにカテゴリースコアを横棒グラフで表すと、上の図5と図6が得られた。

以上のことは、中等のデータについても同様に分析できるが省略する。

さらに学生の初等と中等間における性格傾向が一般化できるかどうかを調べるために統計的検定を行ったところ、「のんびり」と「目立ちたがり」の2項目で有意差が見られた

($p < 0.000$)。表7に「のんびり」の、表8に「目立ちたがり」の検定結果をまとめた。

表7 「のんびりな性格」の検定結果

	初等スコア n 82	中等スコア n 35	平均値の差	P値
平均値	0.452	0.750	0.298	$P 0.000 < 0.05$
標準偏差	0.501	0.826		有意差あり

表8 「目立ちたがりな性格」の検定結果

	初等スコア n 82	中等スコア n 35	平均値の差	P値
平均値	0.095	0.028	0.067	$P 0.000 < 0.05$
標準偏差	0.295	0.167		有意差あり

表7から初等の学生よりも中等の学生の方が自分を「のんびりな性格」と有意に認知していることがわかる。また表8からは初等の学生の方が中等の学生よりも「目立ちたがりな性格」であると有意に自己認識しているといえる。

次に、学生の性格傾向によって、授業満足度に違いがあるかどうかを調べてみた。表9は、学生の性格傾向と授業満足度の割合をクロス集計してまとめたものである。

表9 性格と満足度との関係

	満足できた	やや満足できた	あまり満足できなかった	満足できなかった	
明るい	31%	62%	7%	0%	100%
のんびり	22%	73%	5%	0%	100%
気分や	21%	77%	2%	0%	100%
気配り	31%	69%	0%	0%	100%
ユーモア	42%	58%	0%	0%	100%
クール	29%	57%	14%	0%	100%
慎重	31%	69%	0%	0%	100%
社交的	35%	65%	0%	0%	100%
個性的	13%	80%	7%	0%	100%
目立ちたがり	25%	62%	13%	0%	100%

表9をもとに、「授業満足度」の割合が高い順に、性格傾向を横棒グラフで示したものが図7である。図7から分かるように、授業に「満足できた」と「やや満足できた」を合わせると、学生の多くは授業に満足感を抱いているといえる。

授業に「満足できた」の割合が高い上位3項目は、「ユーモア」(42%)、「社交的」(35%)、「明るい」(31%)であった。

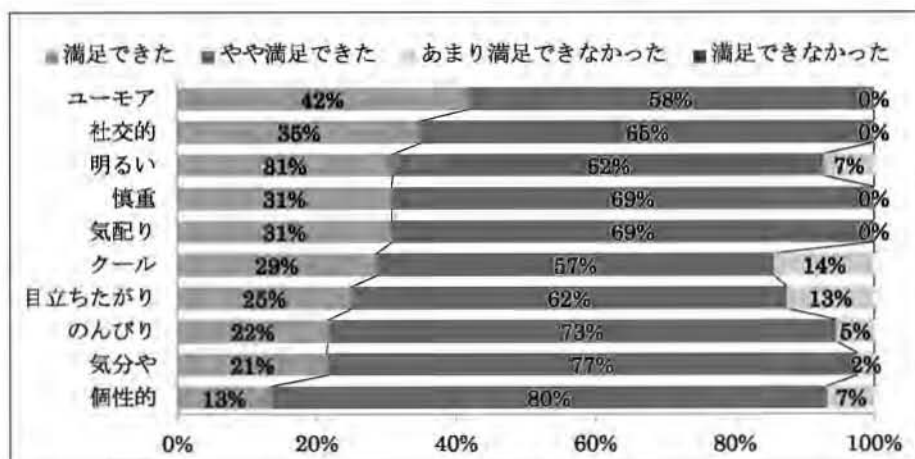


図7 授業満足度と性格

(5) 授業でよかったテーマ

「道徳教育指導法(初等)」で授業内容・方法などがよかったテーマについて尋ねた結果は、図8のようになった。「道徳の指導のあり方」(39%)、「指導案の書き方」(36%)、指導案作成とグループ協議」(32%)であった。学生は道徳授業に関する実践的指導力を求めていることが分かった。



図8 授業で良かったテーマ(初等)

同様に「道徳教育指導法（中等）」について、その割合が高い授業テーマをまとめた。図9を見れば分かるように、「道徳教育と道徳の時間」（53%）、「言語活動と道徳」（42%）、「道徳教育推進教師の役割」（42%）であった。



図9 授業で良かったテーマ（中等）

図8と図9を比較すると、「道徳教育指導法（初等）」で下位にある授業テーマが、「道徳教育指導法（中等）」では上位に位置している。初等と中等とでは、授業で良かったと認識しているテーマが逆転しているといえる。

次に各授業テーマと授業満足度との関係を調べた。図10と図11は、それぞれ初等と中等に関する授業満足度割合をカテゴリーごとにまとめたものである。

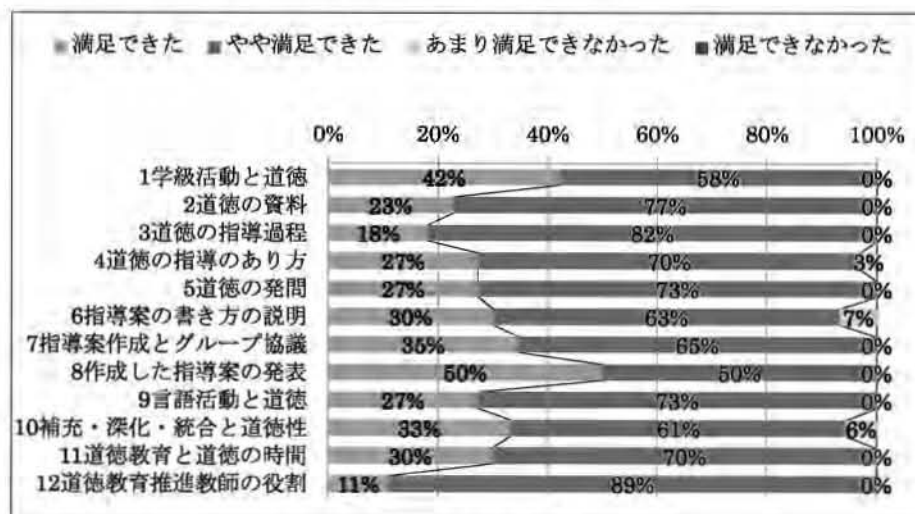


図10 授業テーマと授業満足度（初等）

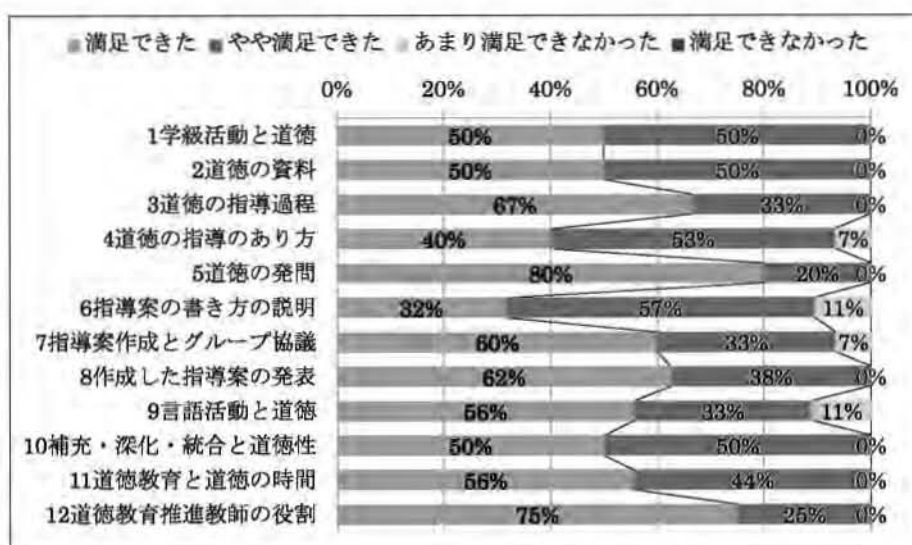


図11 授業テーマと授業満足度（中等）

図10の初等では、「満足できた」の上位3つの授業テーマは、「作成した指導案の工夫」が50%、「学級活動と道徳」が42%、「指導案作成とグループ協議」が35%であった。図11の中等では、「満足できた」の上位3つの授業テーマは、「道徳の発問」が80%、「道徳教育推進教師の役割」が75%、「作成した指導案の発表」が62%であった。また「満足できた」と「やや満足できた」のカテゴリーを合わせて「肯定的評価」とすれば、授業満足度について初等と中等共に90%以上の割合で肯定的評価であった。

（6）グループ討論のメンバー

グループ討論のメンバーについて尋ねた結果が図12である。図12によれば、討論メンバーは「どちらでもいい」と考えている学生が多いことが分かる。「仲がいい人がいい」と考えている学生は少なかった。

次に、グループ討論メンバーと授業における満足度との関係を調べたものが図13（初等）、図14（中等）である。

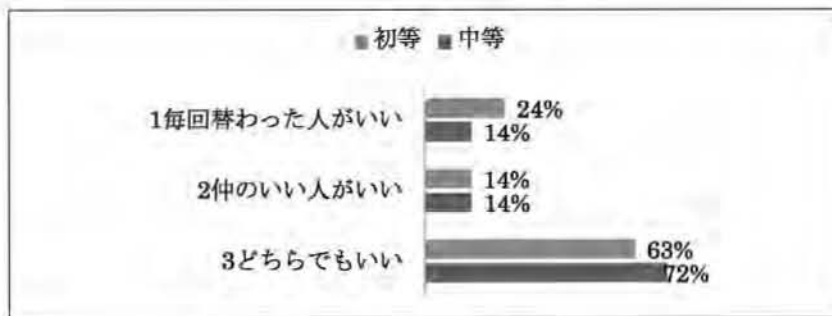


図 12 グループ討論メンバー

図 13 と図 14 からは、授業に「満足できた」と「やや満足できた」と回答した学生の割合は違うものの、グループ討論メンバーの構成には、それほど気にかけていないことが分かった。

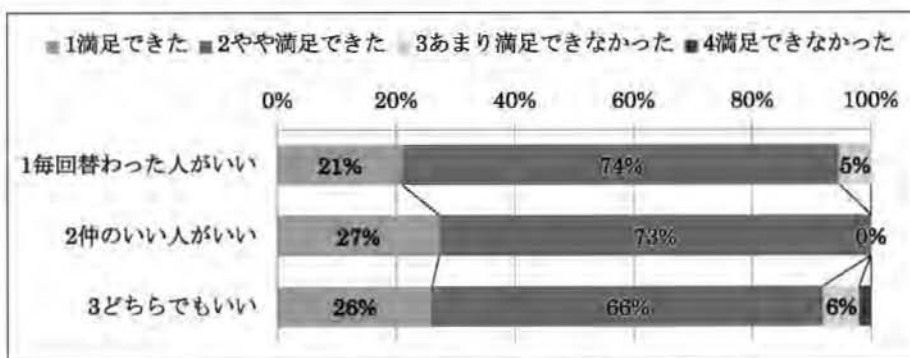


図 13 グループ討論メンバーと満足度との割合 (初等)

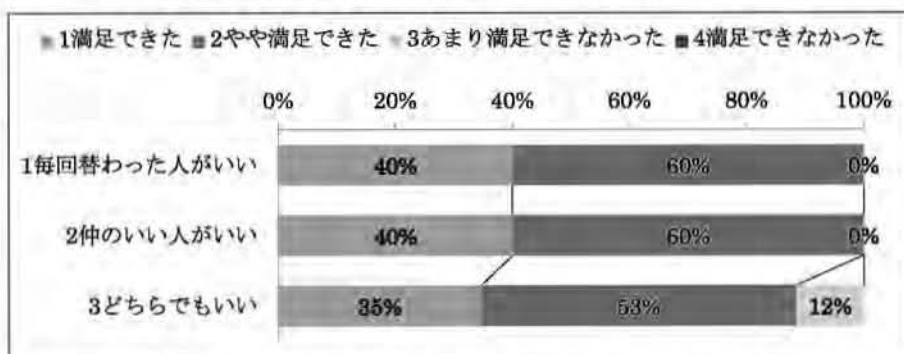


図 14 グループ討論メンバーと満足度との割合 (中等)

(7) 教員によるプレゼンテーション

授業の後半では、教員による授業テーマのプレゼンテーションを行った。毎回、プレゼンシートは20枚～30枚ほどの分量であった。今回は、クラス討論を行っていないので、「教員の説明や補足がいい」と回答した割合が多かった(図15)。

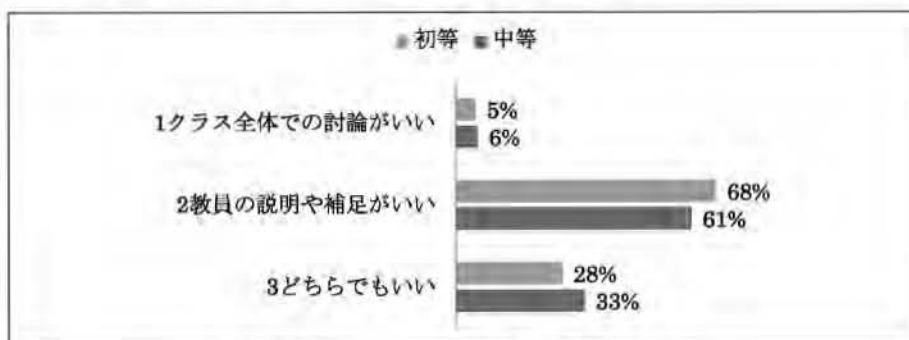


図15 教員によるプレゼンテーションの説明

次に、教員によるプレゼンテーションの説明と授業における満足度との関係を調べてみた。図16と図17は、それぞれ初等と中等におけるプレゼンと満足度との関係の割合を示した100%積み上げ横棒である。

図16と図17のグラフから、初等と中等の授業では共に「満足できた」と回答した学生の50%が「クラス全体での討論がいい」と認識していた。

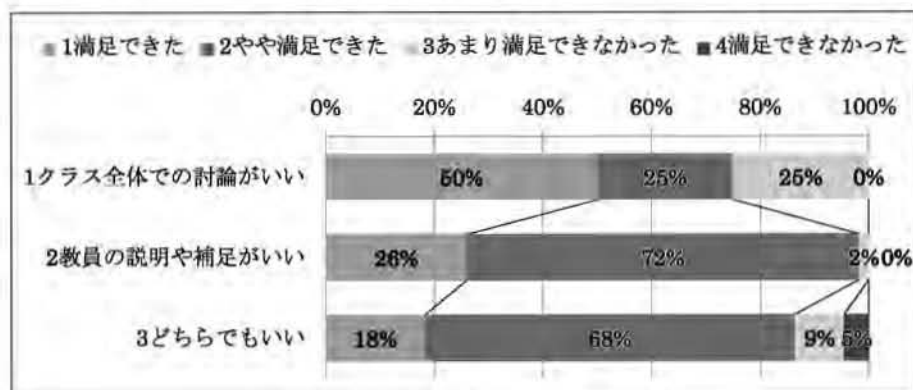


図16 教員のプレゼンと満足度(初等)

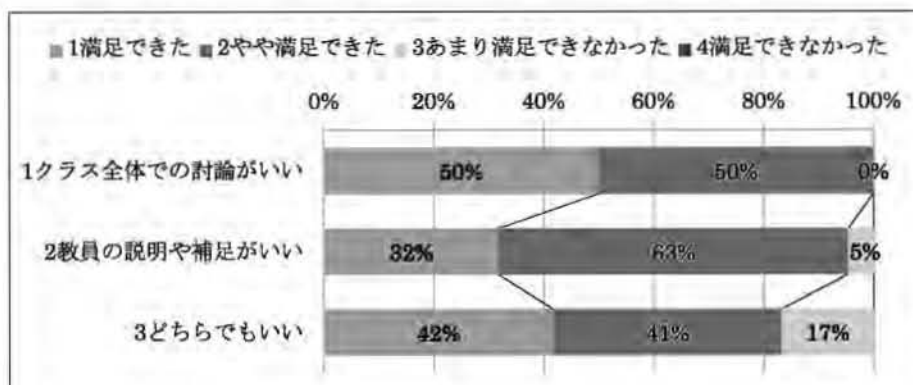


図17 教員のプレゼンと満足度（中等）

(8) プレゼンテーションシート

今回の授業テーマに関する説明では、パワーポイントを使って授業を進めることにした。毎回、プレゼンシートを作成したので、学生が見っぱなし、聞きっぱなしでは良くないので、プレゼンシートを配布し、それに書き込みをしながら教員の説明を聞くように伝えた。授業では配布資料が多いので、あえてそのことを尋ねた。

その結果が図18である。プレゼンシートは、役立つので必要と考えていたし、多くの学生は、配布資料はクリアファイルなどに大切に保管していた。

次に、プレゼンシートと授業満足度との関係を見てみたのが図19である。図19から、初等も中等も共に役立つので、プレゼンシートは必要であると認識していた。

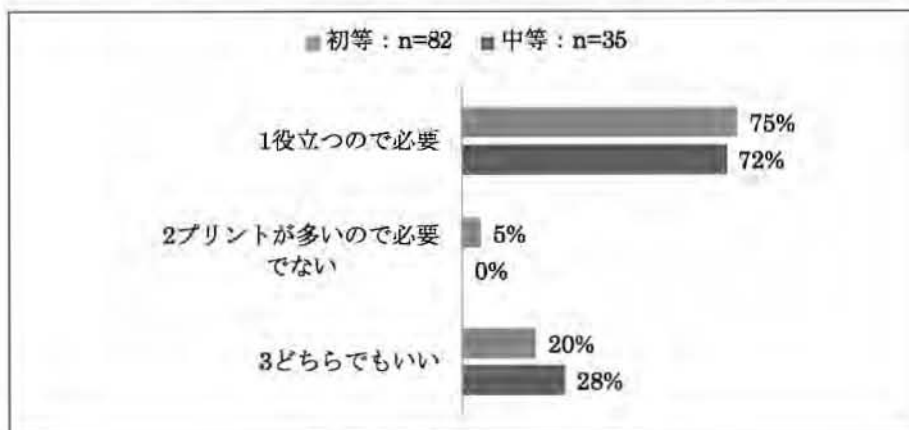


図18 プレゼンシートの必要性

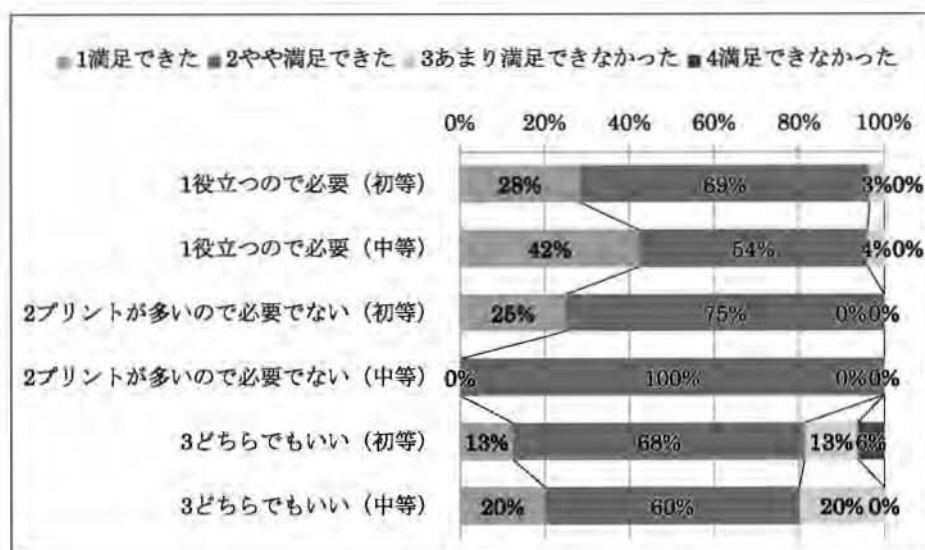


図 19 プレゼンシートと満足度

(9) 指導案の書き方

指導案の書き方について、3回の授業テーマを計画して書き方の説明と実践演習を行った。そのことについてまとめたのが図 20 である。

初等も中等も共に指導案の書き方については「役立つ」と認識していた。

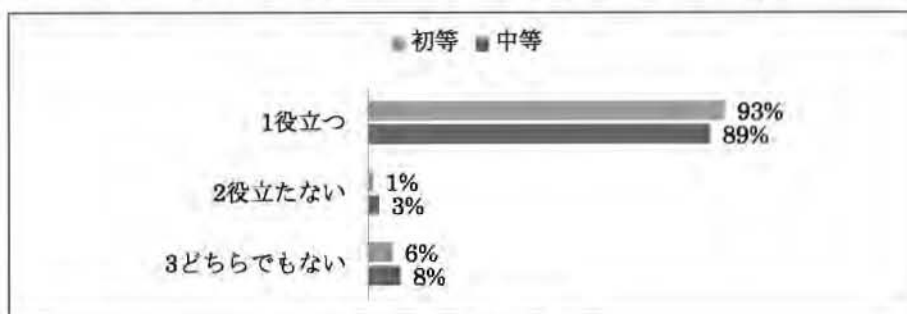


図 20 指導案の書き方

次に、指導案の書き方と授業の満足度との関係を調べたグラフが図 21 である。図 21 の「役立たない」の割合が初等と中等で 100% になっているが、これを人数で示せば 1 人である。図 21 の割合を度数で示したものが表 10 である。

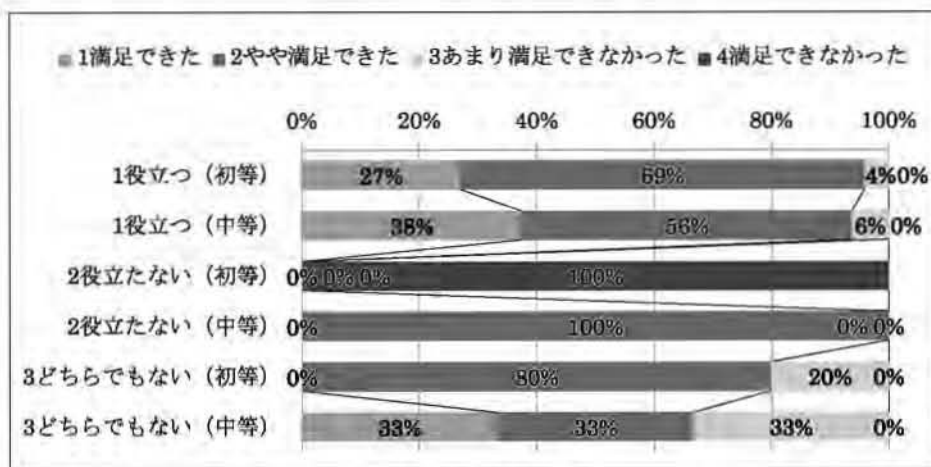


図 21 指導案と満足度

表 10 指導案と満足度の度数

指導案 \ 満足度	1 満足 できた	2 やや満足 できた	3 あまり満足 できなかった	4 満足でき なかった	計 (n)
1 役立つ(初等)	20	51	3	0	74
1 役立つ(中等)	12	18	2	0	32
2 役立たない(初等)	0	0	0	1	1
2 役立たない(中等)	0	0	0	1	1
3 どちらでもない(小等)	0	4	1	0	5
3 どちらでもない(中等)	1	1	1	0	3

(10) 指導案作成のグループ協議

グループで協議を行い、グループで1つの指導案を完成する過程の時間を設定した。そのことについてまとめたものが図22である。

図22を見れば、70%以上の学生は初等も中等も共に、指導案を作成するための協議の時間が必要であると認識していた。

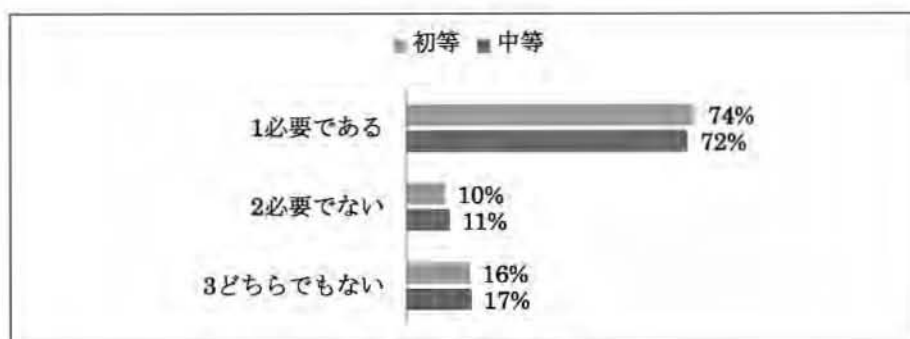


図 22 指導案の協議

次に、指導案作成と授業の満足度との関係を調べたものが図 23 である。「満足できた」と「やや満足できた」を合わせて「肯定的回答」とし、「あまり満足できなかった」と「満足できなかった」を合わせて「否定的回答」とすれば、初等も中等も共に指導案作成では、「必要である」と肯定的回答をしている割合が 90% 以上であった。またこのグラフの根拠となる度数を示したものが表 11 である。

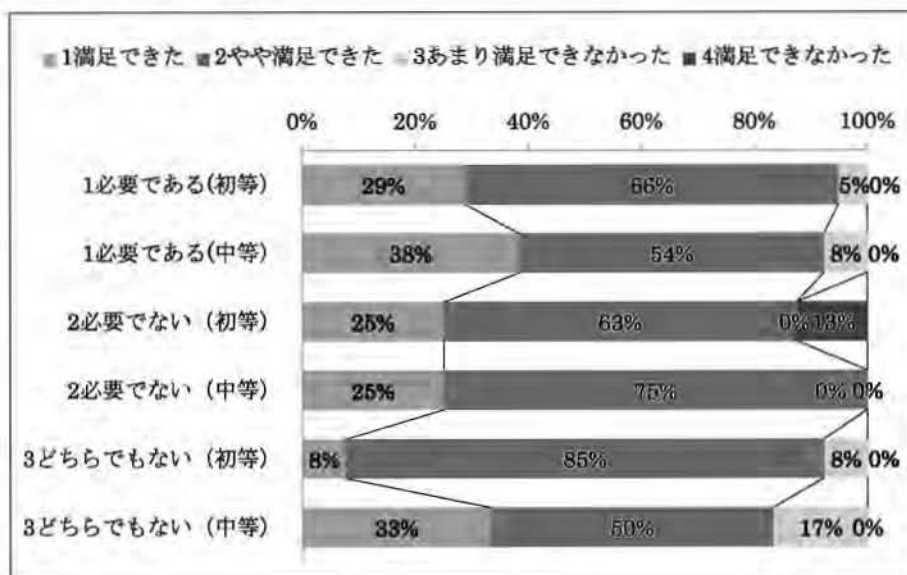


図 23 指導案協議と満足度

表 11 指導案作成協議と満足度

満足度 指導案協議	1満足 できた	2やや満 足できた	3あまり 満足でき なかった	4満足で きなかつ た	計 (n)
1必要である (初等)	17	39	3	0	59
1必要である (中等)	10	14	2	0	26
2必要でない (初等)	2	5	0	1	8
2必要でない (中等)	1	3	0	0	4
3どちらでもない (初等)	1	11	1	0	13
3どちらでもない (中等)	2	3	1	0	6

(11) 授業満足度

「道徳教育指導法 (初等)」と「道徳教育指導法・(中等)」について、全体として授業に満足できたかどうかの割合を、それぞれ図 24 と図 25 にまとめたものである。初等では「満足できた」が 25%、「やや満足できた」が 69%であり、中等では「満足できた」が 36%、「やや満足できた」が 56%であった。初等も中等も共に授業の満足度に関しては肯定的評価であった。



図 24 授業満足度 (初等)

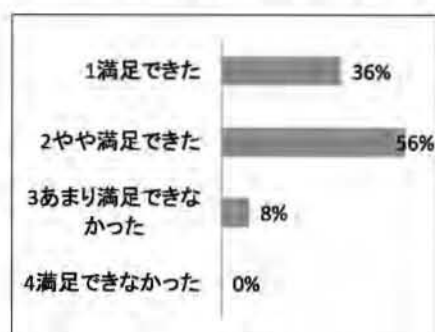


図 25 授業満足度 (中等)

4. 考察

本論は、平成 24 年度前期授業「道徳教育指導法 (初等)」と「道徳教育指導法 (中等)」について、学生が道徳の授業をどのように認識しているかを調査し、その回答をまとめたものである。アンケート項目ごとに内容を分析してまとめたが、おおむね、授業に関しては肯定的評価であった。今回の調査では、授業への「満足度」を視点としてまとめてみた。そのため、各項目の割合をまとめただけでなく、各項目と授業への「満足度」との関係性をクロスさせることを行った。クロス集計を行うことで、項目内容をより分析的に考えることができた。

例えば、問5の授業テーマに関する質問では、12の授業テーマの中から、学生自身が良かったと思う授業テーマを選択してもらった。この時、回答割合を視覚的に分かりやすいようにグラフ化を図ることは容易であった。この時、各質問項目のカテゴリーごとに、問11の授業満足度との関係を調べてみる必要があった。そうすることで、カテゴリーについて、4つの授業満足度の視点から項目内容を深く読み取ることができる。また問6でグループ討論のメンバーを尋ねたが、予想では「仲のいい人がいい」の割合が高いただろうと考えていたが、実際には、討論メンバーは「どちらでもいい」との回答が7割近くあった。この問6を問11とクロスさせたところ、問6の3カテゴリーの満足度の割合は似通っていた。データの整理にあたっては、単純集計の他に分析結果の一般化を図るために統計的検定を試みたが、その取扱い方は今後の課題と考えている。

今回の授業は、前半を学生中心のグループ討論を行い、後半はどちらかといえば、講義型授業に傾斜しており、クラス全体の討論形式の授業にもっていくことができなかった。これも今後の大きな課題である。

さらに道徳の指導案を作成する時間を3回指導計画に入れたことは、学生が実際に道徳の指導案を書けるようになったことで効果があったといえる。15回目授業の試験では、読み物資料を与え、それについて指導案を作成することを課したが、指導案が書けない学生がいなかったことは授業の収穫であったといえる。今後の大学授業では、学生が主体的に学び、意欲を持って授業に取り組める条件と授業実践が大切であると思う。今回はクラス討論を省いた授業形式であったが、学生の授業に対する満足度の視点からは効果的であったといえる。それは問11の総括的な授業満足度の割合からも予想される。しかし満足度の質という新たな視点を考えた授業デザインが必要である。その一つとして授業後のアンケート調査が考えられる。授業テーマが反映されるアンケート用紙の開発が求められる。学生の立場から記載しやすく、また教員の立場からも授業改善を進めていける内容を含むものである。そして24年度前期授業の実践と課題を踏まえて、後期授業に取り組んでいきたいと考えている。

参考文献

- (1) 菅民部著『すべてわかるアンケートの分析』現代数学社 2010年
- (2) 柳谷晃著『事例でわかる統計解析の基本』日本能率協会マネジメントセンター 2006年
- (3) 酒井隆著『ビジネス実務事典統計解析』日本能率協会マネジメントセンター 2006年

資料

道徳教育指導法（初等・中等）授業アンケート 氏名（ ）

問1 あなたの学年は？ ①3年 ②4年

問2 あなたの学科は？

①乳幼児発達コース ②児童発達コース ③基礎学 ④文化学科

問3 あなたの進路先希望は？（○は一つ）

①保育園 ②幼稚園 ③小学校 ④中学校 ⑤高等学校 ⑥特別支援学校
⑦子ども関係の施設 ⑧公務員 ⑨民間会社 ⑩事務職
⑪飲食・販売などのサービス業 ⑫資格が生かせる仕事

問4 あなたの性格は？（○はいくつでも）

①明るい ②のんびり ③気分や ④気配り ⑤ユーモア ⑥クール ⑦慎重
⑧社交的 ⑨個性的 ⑩目立ちたがり

問5 授業でよかったのは？（○はいくつでも）

①学級活動と道徳 ②道徳の資料 ③道徳の指導過程 ④道徳の指導のあり方
⑤道徳の発問 ⑥指導案の書き方の説明 ⑦指導案作成とグループ協議
⑧作成した指導案の発表 ⑨言語活動と道徳 ⑩補充・深化・統合と道徳性
⑪道徳教育と道徳の時間 ⑫道徳教育推進教師の役割

問6 グループ討論のメンバーは？

①毎回替わった人がいい ②仲のいい人がいい ③どちらでもいい

問7 授業の後半は、教員によるプレゼンでの説明はどうでしたか？

①クラス全体での討論がいい ②教員の説明や補足がいい ③どちらでもいい

問8 教員によるプレゼンシートは必要か？

①役立つので必要 ②プリントが多いので必要でない ③どちらでもいい

問9 指導案の書き方の説明は？

①役立つ ②役立たない ③どちらでもない

問10 指導案作成のグループ協議は？

①必要である ②必要でない ③どちらでもない

問11 全体として、この授業は満足できましたか？

①満足できた ②やや満足できた ③あまり満足できなかった ④満足できなかった

Questionnaire Analysis method of teaching moral education classes

Tsukasa KAWANO

Department of Education and psychology, Faculty of

Humanities, Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka Yahatanishiku, Kitakyushushi Fukuoka 807-8586 Japan

Abstract

Are summarized in the survey "method of teaching moral education (primary and secondary)" class for the previous fiscal year FY 2012, teaching students how to recognize whether or not the moral. In class, "When you are satisfied" is 25%, in the primary was "somewhat satisfied" is 69%, in the secondary was "satisfactory" is 36%, is "somewhat satisfied" was 56%. Satisfaction with respect to teaching was also evaluated positively both primary and secondary as well. "Also ingenuity of the draft guidance that was created" in the primary is 50 percent, "moral and classroom activities" is 42%, subject class of the top three "could be satisfied", the "consultation group and a draft guidance" is 35% There was. "Questioning of morality" in the secondary level is 80%, "The role of moral teacher education promotion" is 75%, "presentation of the draft guidance that was created" was 63%. That the discussion group in the first half, but went to a lecture-style teaching the second half, we will be in the form of whole class discussion the second half is a problem.